

令和 4 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (2) グローバル化に対応した人材育成に関する事業
(6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 キャリア育成センター

申請組織長 役職名 キャリア育成センター長 氏名 吉田 あけみ

統括責任者 役職名 国際コミュニケーション学部 氏名 水島 和則

課題名 SUGIYAMA 学外エアライン研修

	役 割	氏 名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	水島 和則	国際コミュニケーション学部	企画・運営マネジメント
		渡部 真也	キャリア支援課長	企画補佐
		尾内 里江	事務職員	企画補佐
		押元 翔馬	事務職員	企画補佐

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

学内で行う、「エアラインガイダンス」や「SUGIYAMA エアラインシンポジウム」により得た知識等をふまえ、空港や航空会社へ足を運び、施設見学や実際に業務に従事している方々と交流することにより、航空業界・職業への理解を深めることを目的とする。
本学で、キャビンアテンダント (CA)、グランドスタッフ (GS) 等を目指す学生にとって、卒業後の具体的なキャリアを考え、現在自身が何をすべきかを考える貴重な機会となる。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

航空業界で活躍する本学の卒業生や各企業との信頼関係が構築されている中で実現が可能となる企画であり、一般では見学ができない施設への立入りや、OG・企業の担当者からの生の声を聴くことができることが、この事業の特色である。

コロナ禍で停滞してはいるものの、毎年航空業界への就職希望者が一定数見込まれる本学の状況において、本研修はキャリア教育の一環として、学生の就業観を高める一助となることが期待でき、学生自身がこれからの大学生活をいかに過ごしていくかを考えるヒントを与えることができると考える。

本研修に参加するためには、事前指導へ出席することが必須で、学生自身が本研修への参加目的や意義を考える機会を設けることができ、より深い業界理解・職業理解へとつなげることができる。

3. 事業の成果 (600 字～800 字程度で記述)

今回学外エアライン研修に参加をした学生 20 名に対して行ったアンケートにおいて、回答をした 18 名は「あなたの今後の職業選択の参考になりましたか？」という問いに全員が「大変参考になった」または「参考になった」と回答している。このことから、本プログラムの目的である「航空業界・職業への理解を深めること」を達成することができたと考ええる。

また「この研修を通して、エアライン業界に加えて航空機についても多くの知識を得ることができました。また実際に空港で働かれている社員の方々の姿や空港の裏側など、中々見ることでできない光景を見ることができ、大変嬉しく感じました。」「エアライン業界についてより理解をすることができました。」「今回のエアライン研修でネット上で知ることのできない、勤務内容の深い部分や働く際に意識していること、そして今回参加する上で 1 番気になっていた理想と現実のギャップについて知ることができたため、参加させていただくことができてよかったです。」というアンケートへの回答があり、学生の就業観を高める一助となったことが確認できた。

また、参加した学生は、お礼状という形で、本研修で学んだことや、考え方の変化などを文章にすることにより、自分自身で振り返りを行うとともに、今後のキャリアを考える機会とすることができている。

今年度は、A 社での研修において、駐機中の機体について整備担当の方による説明を受けることができた。また、B 社においてはオペレーションサービス部の現場見学が実現し、航空機への指示などを行う最前線を間近に見ながら解説を受けることができた。これは、毎年本プログラムを開催していることによる本学と各企業との信頼関係の構築があったからこそ実現したといえる。

上記のように、実際に現場を見て、関係者と話さなければ得ることのできない知識、経験を吸収できることが本事業の意義であり、今年度もその目的を達成できたと考ええる。

4. キーワード (本事業のキーワードを 1 つ以上 8 つ以内で記載)

①航空業界の理解	②職業への理解	③キャリア意識醸成	④現場体験
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

今年度もコロナ禍ではあったが、感染拡大防止対策を徹底しつつ、企業の協力を得てコロナ前と同様に実施できた。また、トラブルや事故もなく、予定どおり学生 20 名が参加をし、2 日間にわたるプログラムを遂行することができた。A 社での駐機中航空機見学や、B 社のオペレーションサービス部見学は貴重な学びの機会であり、プログラムの内容向上を図ることができた。

今後の課題としては、2 日目のスケジュールで午前のプログラムが長引き、昼食時間がほとんどとれなかったため、次年度は見学時間に留意をする。

また、今年度アンケートに、バス移動時間の使い方について意見や「航空業界で就職された先輩方の就職活動のスケジュールを聞く機会が欲しい」との声があったので、次年度検討時に参考にしていきたい。